

課題 1

2005～2007 年度にかけて、地域経済成長（率）の需要要因を分析せよ。需要の構成比は、初期時点（2005 年度）。成長率は、二時点の自然対数の差を採用すること。変数が Y_{05} と Y_{07} であれば、 $\ln(Y_{07}/Y_{05})$ に 100 を掛けたものが 2 年間の成長率（変化率）となる。

回答例

表－1 成長率に対する需要項目の寄与：2006～2007 年度

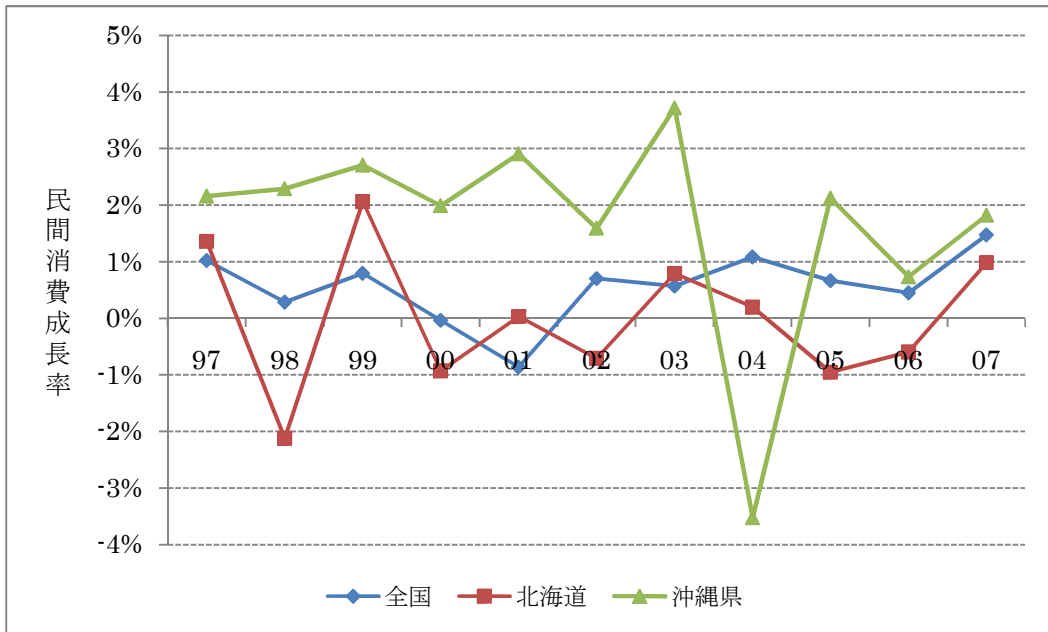
	民間消費 (CP)		政府消費(CG)		民間投資(IP)		公的投資(IG)		移 出(EX)		移 入(IM)		成長率
	伸び率	構成比	伸び率	構成比	伸び率	構成比	伸び率	構成比	伸び率	構成比	伸び率	構成比	GRE
北海道	1.0	61.8	0.9	26.5	-2.8	11.8	-7.3	7.4	0.6	27.9	0.2	40.1	-3.5
沖縄県	0.8	52.2	1.8	31.1	-6.5	17.0	5.9	8.4	0.1	31.5	0.5	39.8	0.6
東京都	0.8	35.5	0.8	12.4	-1.6	16.2	3.5	2.0	2.6	80.6	2.5	47.4	0.7
全 国	1.5	50.4	1.6	17.5	-0.6	17.7	-4.6	3.8	3.1	75.2	2.4	64.5	0.3

注) 期間は 2006～2007 年度。構成比は、対 GRE(Gross Regional Expenditure)値の%で、基準年の数値。数字は、全て%。

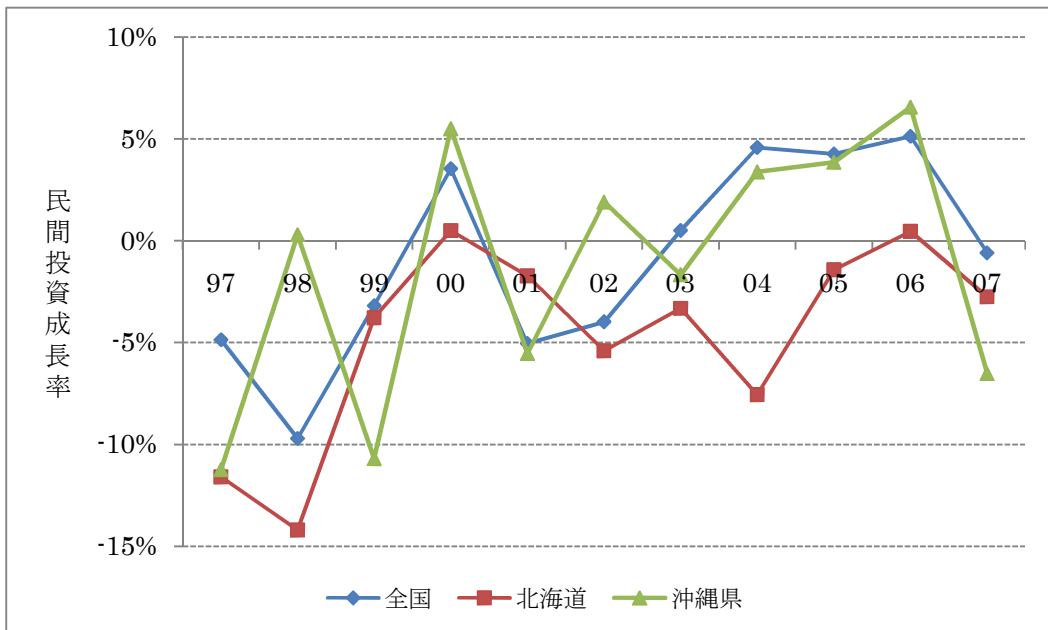
2006 年度から 2007 年度の 1 年間だけであるが、地域全体の成長率では、東京都と沖縄県が全国水準を上回っており、北海道が大きく下回っている。北海道と沖縄県は、公的支出に依存した経済となっている。北海道の大きなマイナス成長の要因は、公的支出への依存（構成比が高いこと）と公的投資の伸び率がマイナスであることが大きく影響している。また、支出割合の高い民間消費支出の伸びが低かったことも理由の 1 つである。これらの地域（北海道、沖縄県）は、民間消費の構成比率の高さから東京都に比べて内需主導型経済であるが、言い換えると閉鎖的経済とも言える。この期間、民間投資は停滞しているが、東京都の落ち込みは相対的に小さい。東京都では、移出が堅調に伸び成長を牽引している。

下記のグラフから、・・・

図－1 民間消費の成長率の比較



図－2 民間投資（民間固定資本形成）の成長率の比較



図－3 北海道の需要変化率の推移：構成比の大きい項目について

